

NEW LIFE

20xx年、宇宙開発の発展により、研究が進められていた宇宙エレベーターが完成した。
人類と宇宙の間わりは多様化し、訓練を受けた宇宙飛行士だけでなく若者男女問わず宇宙に行くことができるようになったことで、様々な可能性が広がった。

宇宙エレベーターの仕組み

「静止衛星」
地球を回る人工衛星は地球の重力で下へ引っ張られている力と、遠心力で上に飛び出そうとする力が一致して成り立っているため、高度を維持して周回し続けている。このうち赤道上の高度3万6000kmを回る人工衛星は、周期が地球の自転と同じで、地上に対して一点に静止しているように位置する。
静止衛星から地上に向けてケーブルを垂らしたとすると、ケーブルを吊り下げた分、衛星の地上に向いている側、つまり下の方は重くなる。徐々に地球の重力に引かれて落下してしまう。そこで、反対側にもケーブルを伸ばしてバランスをとることで軌道の高度を維持して回り続けられる。
次に、下向きのケーブルをさらに伸ばすと重さが偏るので再び反対側も伸ばす。これを繰り返していくと、下へ伸ばしたケーブルはやがて地上に到着し、地上と宇宙を結ぶ長大な1本のケーブルになる。このケーブルに昇降機を取り付け、人や物資を輸送できるようにしたものが宇宙エレベーターである。(一般社団法人 宇宙エレベーター協会 HP より引用)
※素材はカーボンナノチューブを活用している。

宇宙ホテル

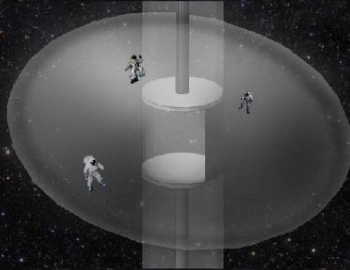
月と地球を繋ぐエレベーターの中間に位置する施設である。
骨組み膜構造で形成されており、骨組みと膜はエレベーターで輸送して現地で組み立てる。

人類と月

月は人類の生活や文化と密接に関わってきた天体であり、常に地球のそばに寄り添っている。
しかし、人類と深いつながりを持っていないが謎が多い天体であり、人類は月を追い求め、目指している。
そこで、月と地球を繋ぐエレベーターの中間に位置する宇宙ホテルを提案する。



Floor 5 宇宙へ行くためのカウンター。
月へ行く前と後にここで手続きする。



Floor 4 無重力を全力で楽しむためのスペース。
月に行く前の練習にも。



Floor 3 宇宙食や宇宙服が販売されている。
月に行きたい人はここで宇宙服を買って月へGO!!!



Floor 2 大きな空間の中に個室が吊るされている。
骨組みは五角形で構成されている。



Floor 1 カウンター。
ホテルに入る前にここでチェックイン、地球へ帰る前にチェックアウトする。

Diagram

